

第9回木曾三川下流域自然再生検討会 議事概要

日時：平成30年9月27日（木）15：00～17：00

場所：木曾川下流河川事務所1階会議室

1. 開会

2. 挨拶（木曾川下流河川事務所所長）

3. 委員紹介

4. 議事

1) 前回までの検討会における主な指摘事項とその対応

- ・かわまちづくりを1つの水辺整備事業という形だけで終わらせるのではなくて、他事業と関連性を持たせて進めるのは良い取り組み方である。

2) 自然再生の課題についての点検

- ・タケについては、堤防の安定性に対しては好ましくないが、自然環境の中で生育したものを簡単に除去していいのかという問題もあるため、その点は今後検討するべきかと考える。
- ・ヤナギについては、多様性があれば利用する昆虫も増えるため、食物連鎖の基盤としての大事さがある一方、順次伐採していかないと治水や維持管理面にはよくない影響が出る。また、ヤナギが増えることにより、もともと生えていた草本類が減少する可能性があるため、取り扱いについては今後も検討していく必要がある。
- ・下流域は人間のインパクトが非常に強く働いているエリアだから、ナチュラルな場所はもともと少ない。それだけに、人間が積極的に管理して保全するという視点を入れると良い。
- ・ヨシ原の面積は資料によって大差があるようなので、定義を明確にすることはできないか。ある程度良否の基準を設けて写真で判定する等でも良いと思う。
- ・「ヨシ原の被度が低下」した箇所のうち「基盤が流出した箇所については検討」とのことだが、流出した原因を明らかにして追加対策を図るという積極的な書き方にして、原因を見ていく姿勢をより出していただきたい。
- ・ヨシ原の維持やタケやヤナギとの関係においても、干潟の再生においても、土砂の挙動が密接に関わっているので、UAV等を用いて実態の把握に努めていただきたい。
- ・特定外来生物の取り扱いは適切だと思うが、それらだけではなく、現場に即したこと、例えば、オオカナダモ等の魚類の生息阻害となっている外来水草の駆除を実施すると良いのではないかと、

- ・周辺の陸域等から入る流木について、一部はそのまま伊勢湾へ出てそれが海岸では積み上げられて無残な状況になっているし、大雨と絡んで防災上の問題にもなるため、何らかのコメントを入れるべきである。
- ・計画書では、木曾三川で一括りにできる部分と河川毎に課題が分かれる部分とについて、それらが分かるような記載にしてもらいたい。
- ・棒グラフに標準偏差を示す方法は近年不適切だとされてきているので、標準偏差を示す場合にはグラフ表現を再考すること。
- ・「地区により木曾三川下流域における生態系の改善につながることを示す生物の生息数の増減がみられたため、さらなるヨシ原再生による基盤環境の拡大が必要である」と課題が記載されているが、この増減が環境の変化によるものか、自然現象としての増減なのかわからない。むしろ、生物の増減の仕組みの解析が必要であって、原因を検討していくことに加えて、必要な場合には追加対策を図るといった等の積極的な書き方にしていただいた方が良い。
 - ・農業用排水路等、非常に多くの水生生物が住んでいるという調査結果も示されているので、「支川」は「支川等」にしておいて貰いたい。

3) 自然再生の目標及び対象とする自然再生の項目の点検

- ・ヨシ原の再生に拘らず、現にあるヨシ原の保全についても計画書に記載し、しっかりと取り組んでもらいたい。揖斐川のように潤沢なヨシ原があるところでも保全維持には課題はあるということで、保全維持にも力点をおくことでより現状に即した形で対応になるのではないか。
- ・昭和30年代の状況を写真等で参考にするとしても、生活様式もすっかり変わり当時とは比べものにならないくらい快適な生活を送っている。その中で、どこまで様々な生物にとって良い環境にしていくのか、本質的に目標とすべきことは何なのかということについて、どこかに反映できるよう議論していくべきである。

4) 今後の予定について

「今後の予定について」事務局から説明がなされ質疑の後、了承された。
次回第10回検討会は12月頃を予定している。

5. 閉会

以上